

すみよし



2011年 イースター号 第183号

聖 句

さあ、行って、弟子たちとペトロに告げなさい。

“あの方は、あなたがたより先にガリラヤへ行かれる。

かねて言われたとおり、そこでお目にかかれる。”

マルコによる福音書 16 章 7 節
選 : マリア・マザレツロ MK



東日本大震災（2011.3.11）に想う

祈り

あわれみ深い神さま、あなたはどんな時にも私たちから離れることなく、喜びや悲しみを共にして下さいます。今回の大震災によって苦しむ人々のためにあなたの助けと励ましを与えて下さい。

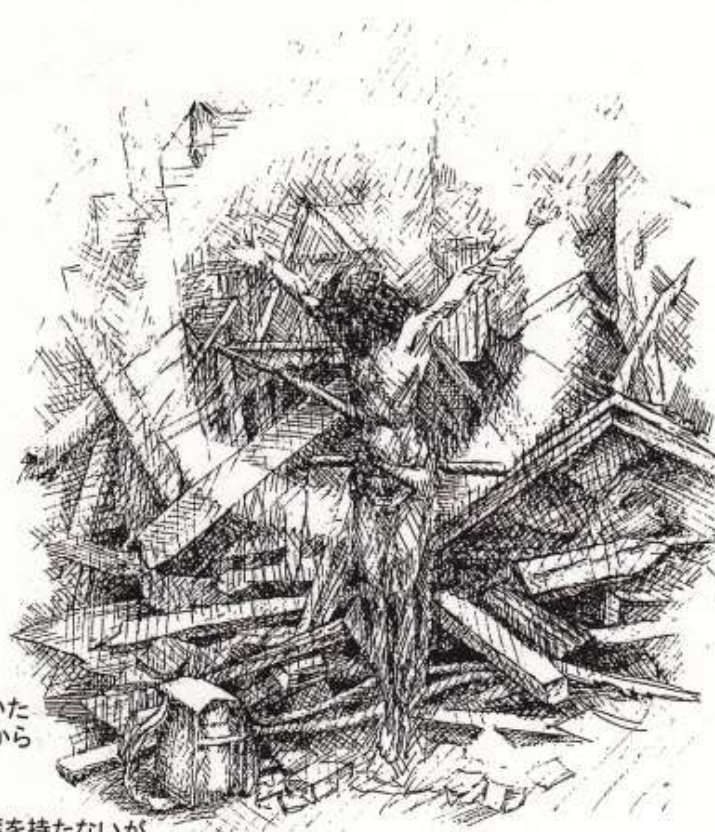
私たちもその人たちのために犠牲をささげ、祈り続けます。そして、一日も早く、安心して暮らせる日が来ますように。また、この震災で亡くなられたすべての人々があなたのもとで安らかに憩うことができますように。

母であるマリアさま、どうか私たちのために祈りください。

主キリストによって。アーメン。

（大阪大司教区）

すみよし



あの時わたしたちは みんな泣いた
瓦礫の中 すぐに...ずっと後から

今、比べようもない 惨状の中
泣いている人たちに かける言葉を持たないが
訪れる春を数えて生きながら
たとえくもの糸のような希望でも
持ち続けて下さる事を 祈ります

1995 イースター号

第136号

《四旬節黙想会》

平成 23 年 4 月 3 日（日）

指導司祭 古川 勉神父（横浜教区）



今年の黙想会は横浜から古川神父様をお迎えして行われました。

神父様は大学卒業後、1 年間の社会人生活を経て、司祭の道を選びました。

その間、カリタスジャパンとも関わり、キリストとは？信仰とは？教会とは？と考え、教会のあり方や位置づけを見つめ直しておられます。

ミサ中の説教

第 1 朗読（サムエル記）

サムエルはエッサイの 7 人の息子ではなく、羊の番をしていた末の息子（ダビデ）を連れてこさせた。当時のユダヤの社会では、動物を扱う仕事は低く見られていた。主はその彼に油を注ぐように言われた。「人は目に映ることを見るが、主は心によって見る」（16：7）。何が大切かを見きわめる。

ヨハネによる福音

自分たちを特別な人間と考えていたファリサイ派の人々は、評判になって自分たちの上をいくイエスを受け入れず、イエスによって癒された生まれつき目の見えなかった人を追い出した。

自分より立場、地位、評判が上の者を受け入れることが出来なかった。

何が正しい状況か？ 何が本物か？ それはキリストと共にある判断なのか？ 本当にキリストと共に生き、キリストに憧れる人はその熱意、行動力が違う。

典礼や会堂や共同体が立派なことを誇ってはいけない。よりよい教会や共同体を作るために必要なことは、常にキリストと共にあること。

講話 —教会のあり方を考える—

ミサってなに？

何をするの？ 何のために行くの？ と誰かに聞かれたら、何と答えますか。

ほとんどの人が答えに困る。「洗礼を受けているから」では答えにはならない。子供は素直に「おばあちゃんが入院しているから、早く良くなるようにお祈りしに行くの」と答える。これは正解。

一人の大人の生き方として説明出来ないのはおかしい。何のために行くのか分からないから、当然教会がどうあるべきかなんてことも分からない。

歴史的にみると、イエスは当時のユダヤ社会・ユダヤ教中心の世界の中で、キリスト教を創る意思などなかった。旧約聖書に示されている神の教えを正しく生きるにはどうすればよいかを話し、時には食事を共にして自分もそのように生きてだけ。

正しい者が正しい主張をした結果がこのようになる（十字架）。一社会人として正しい者が正しい主張をし、正しいと位置付けをされている者がこのような状況に追い込まれることはよくあること。

イエスの死後、その復活を信じていた人たちは会堂を追い出され、広場に集まって自分たちだけで聖書を読み、食事を共にしていた。

ユダヤ人社会の中心的階層であったファリサイ派やサドカイ派の人々は、そのような集まりを認めなかったが、やがて人々はその人たちを「キリスト者」と呼ぶようになり、その集まりを**エクレチア（教会）**、と呼んで、教会が出来上がった。

ミサ聖祭

細かく分けると 4 つ。

1) 入祭の儀 と 4) 閉祭の儀は始めと終わりの挨拶。

2) 言葉の典礼 ユダヤ人は会堂に集まって旧約聖書を読み、祈り、詩編を唱え、賛美の祈りをして終わる。会堂は子供の教育の場でもあり、大事な個所は暗記させ、繰り返し言われた。

共同祈願で終わる。

3) 感謝の典礼 祭壇＝食卓

ユダヤ人の、特に安息日の食卓は家長が聖書を読んで説明する。パンを割いて葡萄酒を飲み、賛美の祈りをする。その食卓は、①共に祈る場であり、②教育の場であり、③お互いに運命共同体であることを自覚し、確認する場であった。

従って運命共同体である家族・親族とそこで働いている者や外国人（罪びとや異邦人）と一緒に食事をすることはあり得なかった。

食事に招いたり、招かれたりすることは、同じ運命共同体に属して互いに許しあう立場になるということ。

例えば、**ルカ 7：36～46** では、シモンは家に招いたイエスの足を洗うことはなかったが、一人の罪深い女はイエスの足を涙でぬらし髪の毛でぬぐった話が書かれている。イエスの評判を聞いて、ただ招いただけのシモンは客への接待である足を洗わなかったが、相手に対するその態度からその人の人格や位置づけが見えてくる。

歴史の流れにともない、皆で囲む食卓はやがて祭壇となり、その中のパンと葡萄酒を分かち合う部分だけが残った。

I コリント 11：23（第 2 奉献文の一番古い原型）

「パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、『これはあなたがたのためのわたしの体である。これをわたしの記念としてこのように行いなさい』。また、食事の後で、杯も同じようにして、『この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい』」

パウロは前記の文を書いた理由を、**Ⅰコリント 11：17～22**で述べている。
教会に「仲間割れがある」と聞き、それでは「一緒に集まっても、主の晩餐を食べることにはならないのです」と言っている。「神の教会をみくびり、貧しい人々に恥をかかせる」者はキリストのもとに集まるのにふさわしくない。

共同体ではとかく同じ社会的レベルの者が集まる傾向がある。同質の人間ばかりで、祈ったり、食事を共にしても意味がない。キリストのように考え、愛する。

キリストの食卓（ミサ）につくためには、自分より不利な条件の人や弱い立場の人と一緒になければ意味がない。このことは、いつもキリストを見つめ、心にかけていないと気付かない。

「主の晩餐にあずかるのに、ふさわしくなる」ように、キリストの主催する食卓に参加することの出来る資格を確認するために、毎週ミサに来るのです。

(編集部)

すべてのもののいしずえである神よ
あなたは御子キリストの土台の上に
わたしたちを堅く立て、
一人ひとりを聖霊の住まう
神殿としてくださいました。
聖霊の導きによって
わたしたちが
新しくこの地に生まれた建物を通して、
愛と平和に満ちた交わりの共同体を築き上げ、
あなたのみ国をあかしすることが出来ますように。
わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン

(新聖堂献堂の時の祈り)

《目 次》

☆ 聖句	選 MK	・ ・ ・ ・ ・ 2
☆ 東日本大震災に想う		・ ・ ・ ・ ・ 3
☆ 四旬節黙想会	古川 勉神父（横浜教区）	・ ・ ・ ・ ・ 4～6
☆ 目次		・ ・ ・ ・ ・ 7
☆ 2011 年度カトリック住吉教会 小教区評議会 評議員		・ ・ ・ ・ ・ 7
☆ 新議長に就任して	KT	・ ・ ・ ・ ・ 8
☆ 副議長就任ご挨拶	AT・RK・RK・KK	・ ・ ・ ・ ・ 9～10
☆ 成人式		・ ・ ・ ・ ・ 11
☆ 新年会		・ ・ ・ ・ ・ 12～13
☆ 教会学校（ サムエルナイト ・ 遠足 ）		・ ・ ・ ・ ・ 14～17
☆ タイでのボランティア	KH	・ ・ ・ ・ ・ 18～19
☆ パウロ神父様おひさしぶりです		・ ・ ・ ・ ・ 20
☆ 山本助祭叙階式		・ ・ ・ ・ ・ 21
☆ 図書を紹介	AS	・ ・ ・ ・ ・ 22～23
☆ 毛糸帽子のお礼状		・ ・ ・ ・ ・ 24
☆ 信徒動静		・ ・ ・ ・ ・ 25
☆ 教会日誌		・ ・ ・ ・ ・ 26
☆ ミサ・講座案内		・ ・ ・ ・ ・ 27
☆ 後記		・ ・ ・ ・ ・ 25

題 字： 山 際 純 子

表紙絵： 教 会 学 校

大文字は本ホームページへの掲載記事、小文字は不掲載記事と原本のページ

新議長に就任して

フランシスコ・ザビエル KT

このたび議長に就任しました KT です。信徒の皆様と共に明るい共同体作りを進めていきたいと思います。ご協力をよろしくお願い致します。

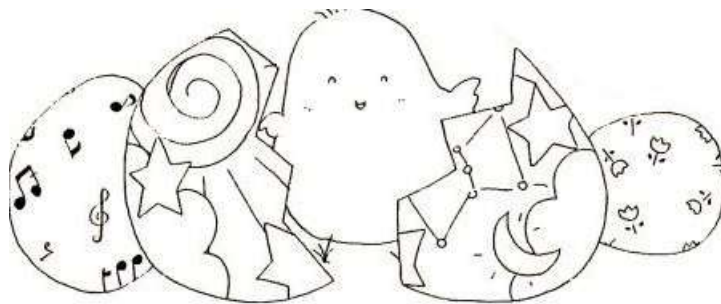
私も住吉教会にお世話になって早いものでもう 35 年になります。
住吉教会は昨年で創立以来、75 年が経ちました。
1935 年の創立以来、教会は聖堂も数々の災害にあいましたが、2006 年には幼稚園と共に新しい聖堂の献堂式を迎えることができ、今日まで司祭と信徒の皆様と一緒によい信仰が守られています。

教会と信仰はどんな時でもかわりませんが、教会共同体と運営は時代によって少しずつ変化が出てきます。
若い方からあらゆる年齢層の方々が“ふれ愛、交わり、癒される教会”が望まれています。

「祈りと癒される教会・共同体づくり」を目指していききたいと思います。
住吉教会としても、これからの住吉共同体運営については、冠婚葬祭、教会維持費、聖堂やその他施設の管理・運営等いろいろな重要な問題がたくさんあります。

また、信徒の皆様に対して教会施設の有効利用を進めていききたいと思います。
たとえば 2 階図書室への年配者や車いすご利用の方、泣き部屋へのベビーカーのお使いの方がエレベーター利用、2F トイレや和室その他施設を使いやすくしていきたいと思ひます。少しずつ進めていきます。

信徒の皆様と評議会が一体となって、明るい、祈りと癒される教会・共同体づくりをふれ愛、交わりで進めていききたいと思ひます。重ねて皆さまのご協力をお願い致します。



副議長就任ご挨拶

アントニオ・ジェラルド AT

もういい加減に引っ込めという自分の心の奥底の声にあらがって、また副議長の役目を引き受けてしまいました。縁の下の力持ち（大した力も無いのに）となって KT 議長を支えていきながら皆様のお役に立てるかどうか心もとない思いです。

私たちは縁あって住吉教会に集まっています。教会に来てみますといろんな人に出会います。私たちは一人ひとり神様から違ったタレントをいただいております、それぞれの考え方が違って当然のことだとは思いますが、信徒がお互いの違いを理解し合い認めあって共に歩んでいけるようになれたらいいなと思っています。住吉教会の 4 つのコンセプトの一つに“信徒の交わりを大切にする教会”と云うのがありますが、それを実現していくためにもお互いの相互理解が大切になってきます。

そのために K 前議長が始められた茶話会（毎月第 2 木曜日に開催）を今後も続けていきたいと思います。そしてもっとたくさんの人が参加して下さいますようお願いいたします。

また、教会では様々な活動をしています。みんなが神様からいただいたそれぞれのタレントを活かしながら教会活動を行っていくうえで、動きやすい雰囲気を作り、働きやすい環境を整えるのがこれからの私の副議長としての役目であると思っています。

まだまだ未熟な者ですが、皆様の祈りと支えのうちに働かせて頂けますようよろしくお願い申し上げます。

マリア・レオニア RK

微力ながら皆様のお役に立てればと思い、この度副議長をお引き受けさせていただきました。皆様のご協力どうぞよろしくお願い申し上げます。

25 年も前のこと、若かった私が婦人会の役員として働き、任期が終わったとき、その年の婦人会長をなさっていた方が「60 歳になったら婦人会の役員を免除していただきましょう」とご挨拶の中でおっしゃったのが心に残っています。そのときはごもっとも、ごもっともと聞き入っていました。そのご挨拶どおりなら、私はもうとっくにお役御免の年齢になっています。社会状況も変わりお若い方々は社会でりっぱに活躍なさる時代ですから、教会で奉仕できる年代がどんどんあがってきているのは事実です。でもお若い方々の力に期待しています。お若いエネルギーな皆様どうぞお力お貸し下さい。よろしくお願い申し上げます。

選挙の折、立候補者と紹介されましたが、私は立候補なんかしていません。教会ではお願いされ、お引き受けすることを「立候補」と言うのかな？っておもいました。こんな風に私は四角いものは四角く、丸いものは丸く、三角は三角にと融通のきかないところがあります。赤波江神父様に『細かいことは言わないで・・・、そんなことどうでも宜しい、おおらかに!! おおらかに!! ふふっ』と一笑されてしまうことでしょう。

もう一つ、私は思ったことを胸に秘めておくことが出来ないのです。思ったことはすぐ口にしてしまいます。私のことをよく知るお友達が「シラ書にとってもいいことが書いてあるわよ」とお電話下さいました。シラ書 20 章 18 節『口を滑らすよりは、道で滑るほうがましだ。』この言葉を胸に納め、お役を全うしたいと思います。皆様どうぞよろしくお願いいたします。

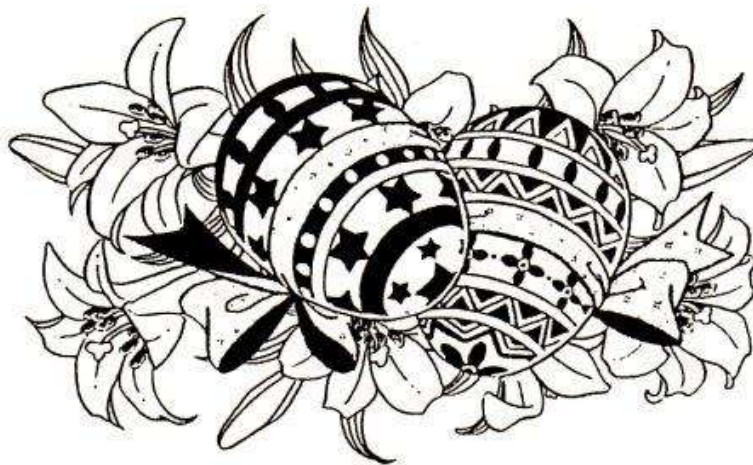
マリア・アグネス RK

乳がん手術の後、典礼のチーム長をやらせていただき、また昨年是一年間ゆっくり過ごさせていただきました。今元気でおりますし(加齢によるものは如何ともしがたいですが!!)、家族の協力もありそうですので、感謝して副議長の重責をお引き受けいたしました。どのようなお役かよくわかっておりませんが、幸い議長様始めチームになっていますので、皆で話し合いまた住吉共同体皆様のご協力をあおぎながらやらせていただこうと思っております。この2年間は、皆様とそして自分にとって実り豊かなものとなりますよう、祈りのうちに…。

テレジア KK

本年度より副議長として住吉教会のために働かせて頂きます KK です。住吉教会にお世話になり 36 年にもなります。その間 3 人の息子達も神父様はじめ信徒の皆様に見守られ成長し今は其々家庭を持ち父親として神様の愛をいっぱい感じ生活しております。

このたびの大役をきちんと果たせるか・・・少々不安ですが神様がお計らいになられた事として、私なりに出来ることを頑張っていきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い致します。



《成人式》

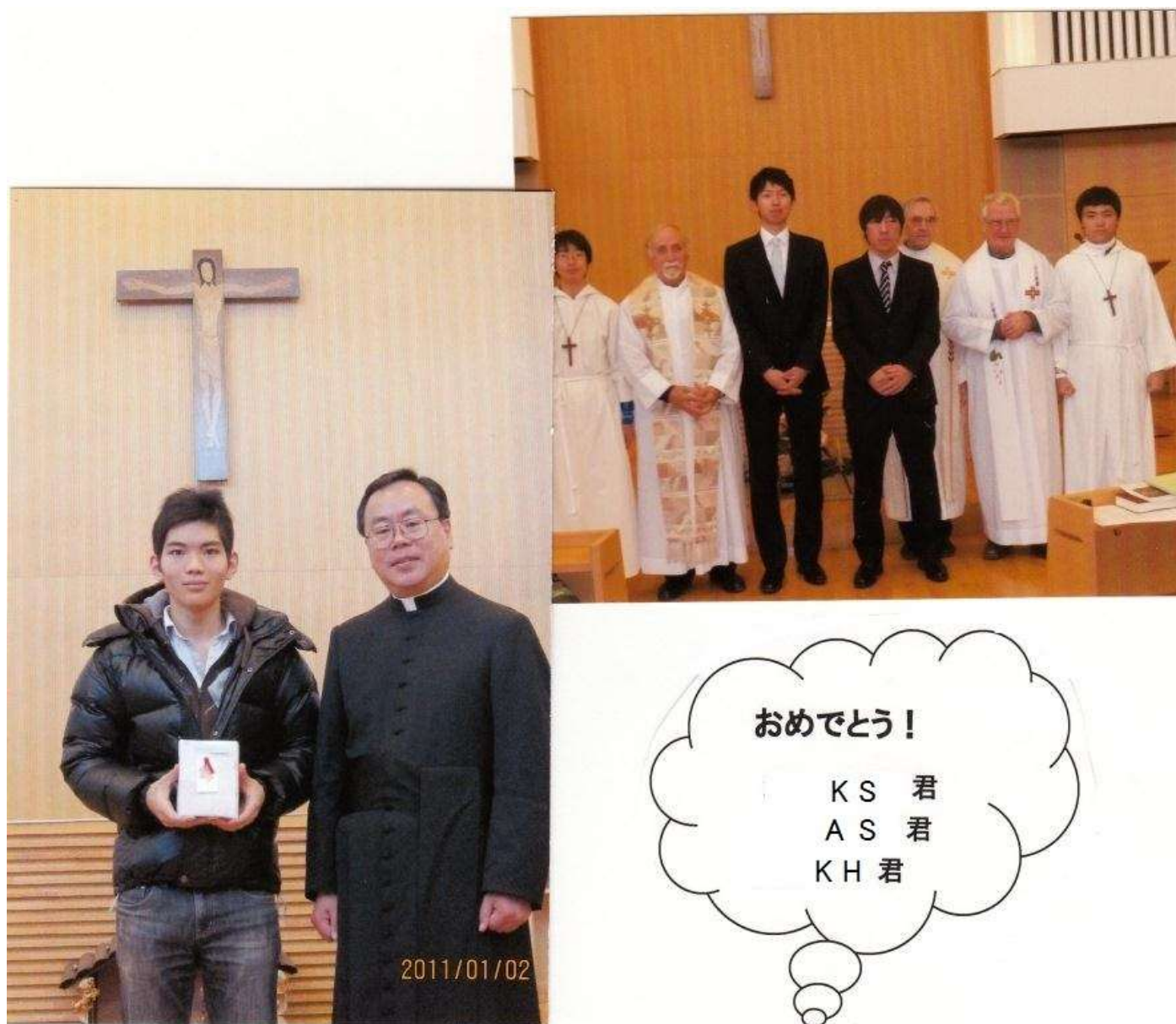
住吉教会で成人式を祝って頂いた事をとても嬉しく感謝しています。まだまだ未熟者ですがこれからもよろしくお願い致します。

K S

無事に成人の日を迎えることができました。僕が小さい頃から今まで、教会学校や高校生になってバンドの練習などで騒がしかった時なども、教会の皆さまが見守ってくださり、感謝しています。ありがとうございます。

まだまだ未熟者ですが皆さまのご指導のもと、これからは僕が中高生の面倒を見る立場に立ったりして教会に貢献していきたいです。

K H



[目次](#)

《新年会》

1 月 3 0 日（日）

今年も恒例の新年会に神父様・シスター・子供たちも大勢参加して賑やかに楽しく過ごしました。





子供たちの合唱
♪小さな世界♪
上手でしたね



サムエル・ナイト (3/26~3/27)



僕は他用があつたため、途中から
参加しました。初めは中央教会の人達と友達
になれるか心配だったけどサム
エルナイトが終った時には、
友達がたくさんできていてよ
かつたです。僕がサムエルナイトで学んだこと
はイエス様が十字架にかけられ
ても十字架にかけた人達や悪人を
ゆるして、悪い人だと改めて実感しま
した。そして僕もそんな人をゆるせるよ
うな人になりたいです。
また来年も参加したいです。

サムエルナイトで感じたこと

K S

サムエルナイトの感想

今回のサムエルナイトではおま
かんけりなどでかつやくしま
した時もあったのでよかったで
す。次からは中学なのでみんな
はみんなをまよめたいと思いま
す。

H F

イエス様が十字架につけられるまでをDVDや
紙いばい、最後はアイズミたいりにして体験までも
しました。ひどい事をされたのによくゆるせるなあ
とサムエルナイトで分かりました。知らなかった人とも仲よ
くなれてよかったです。

A M





はじめてのサムエルナイト

AS

わたしたちは、はいめてサムエルナ
イトにさんかしました。はじめ
てなので、とてもドキドキしま
した。たくさんあるプログラ
ムの中で一番好きだったプロ
グラムは、住吉教会の子と、中
央教会の子と、あそんだこと
です。ド口ケンや、長なわ、か
ん

けりをしてあそびました。それ
たら、きゆうに、はじめてのサ
ムエルナイトが楽しくなりまし
た。そしてイエス・キリストの
ビデオを見て、キリストの一生
をしり学びました。これからサ
ムエルナイトに行きたいです。

サムエルサイトで、一ばんたのしかったことは、あそびで、けいこをしたことです

おもしろかったことはけいりーダーのタイのおべんきょうで、雨がふるときは
川に石を、なうべて、水が あふれないようにするということ。はじめてりま
いた。
それで、ようちえんの子がしゅじかをしあっていたのですごいなへのお
もいました。

そして、ぼくは たっい ちろびくをよんで、おとうさん、おかあさん、あにいちゃん
が ほめてくれてうれしかったです

IK





TK

サムエルナイトは楽しかったです。温泉が一番楽しかったです。

イエス様のことがわかって良かったです。イエス様が持っていた十字架はすごく重かったということがわかりました。イエスさまは、十字架につけられても、皆のために祈ったというのがすごいと思いました。

タイのことでは、神父様のいない教会もあることがわかりました。

また、オタマジャクシを食べたりすることや、タイでは 4 月～9 月位までほとんど雨が降ることがわかりました。ごはんはおいしかったです。

AK

サムエルナイトは楽しかったです。おふろが一番楽しかったです。

タイの村では、ミサは外でやっていたこと（川の前でミサをしていた所）がすごいと思いました。ムササビや川でとった生き物を食べていたのもすごいと思いました。

イエス様は重い十字架を持って、10 キロ、20 キロも歩いたと聞いて、イエス様はすごいと思いました。イエス様は十字架につけられてでも、悪い人を許したことがびっくりしました。

教会学校・遠足 (3/5)



たのしそうだねー



《タイでのボランティア》

2011・2・25～3・9

KH

タイでのボランティアから無事に帰って来ました。

僕がタイで経験したことは日本で過ごす普通の生活では経験できるものではなく、人としての成長ができ、僕の今後の人生において大きく影響を与えてくれるものとなりました。

まず村での生活は特に困ることは少なく、ご飯もおいしく、村人も優しく、すぐにカレンの人たちと馴染むことができました。日本に比べると不便な点はとても多いですが、携帯電話や時間に縛られない、のんびりとした生活ができ、その生活はとても快適でした。しかし、少し困ったのはお風呂というか水浴びでした。日本ではお湯がすぐにでますが、村では川からの水をそのまま使っているのとても冷たく、毎回始めは気合いを入れて水を浴びていました。

また、村に行く前は言葉が通じないから、ちゃんとコミュニケーションが取れるのかと不安でしたが、ジェスチャーや場の雰囲気から意味が分かったり村人も優しく、たくさんの言葉を教えてくれたりして、特に困ることはなかったです。子供たちとは、言葉も関係なく、追いかけてこしたり紙飛行機を作ってあげたりして、仲良くなるのに時間はかかりませんでした。川に子供たちで行った時は何回も滝から飛び込んだり、小さい子に高い高いをしたりしたら列ができるほど喜ばれて、他の力仕事同様に力の限りに遊び楽しんだという感じがありました。

そして、ボランティアで主に行なった仕事は、雨季になった時のためのダム作りでした。それはクワで山から土を削り、その土で土嚢を作り、木で作った柵に詰めて、最後に手作りセメントを流し込むといったものでした。日本ならば機械を使ってすぐに終わりそうなことでしたが、多くの村人と力を合わせて作業をして作り上げたというのはとても達成感のあるものでした。

ミサはというと、とても歌が美しく、毎回感動しました。ミサの流れはどこの国も一緒ということなので、だいたい今はここらへんだなというのが分かりました。

そして教会が村人の生活の中の基本となっていたので、朝の 6 時から朝の祈りが始まる合図として鐘が村中に響き渡っていました。僕は時計を持っていなかったのも、どんなに遅く寝てもその鐘が目覚ましとなっておこしてくれて、寝坊するということはなかったです。

最後に、僕はこのボランティアを通じて、マザー・テレサが「日本の人は物は豊かだが心が貧しい」と言った意味が分かったような気がしました。カレン族の村は日本とくらべれば決して物質的に豊かというわけではありませんが、行く先々でたくさんの食事を準備くださり、私たちを本当に手厚くもてなしてくれました。そして、村人との最後の別れの際に、流した涙はとても純粋なものでした。別れの朝から、僕はステイさせてもらった家族との最後の時間やミサ中に涙をこらえてもこらえきれず、また村の人たちも泣いていました。9 日間ほどしか滞在していなかったにも関わらず、互いの別れを悲しんで涙を流すという経験は今後ないでしょう。

僕は心の底からこのボランティアに参加してよかったと思い、誘ってくださった赤波江神父様と支えてくださった教会の皆さまに感謝します。もし、時間が許すならば来年も是非参加させていただきたいです。



パウロ神父様 おひさしぶりですね。

2 月 25 日 再来日なされたパウロ神父様が新任地へ向かわれる前に
住吉でミサを捧げて下さいました。
数年のブランクにもかかわらず上手な日本語でお話しして下さいました。



3 月 21 日 カテドラルで助祭叙階式

3 月 13 日から 31 日まで住吉教会に滞在の山本英明神学生が助祭叙階を受けられました。当日、住吉から侍者（教会学校、中高生会）が多数参加して喜びを共にしました。そして 27 日には主日のミサの後、ホールで信徒が集いお祝い会がありました。



《図書を紹介》

『朝一番のおいしいにおい』

佐藤初女著 女子パウロ会

『いつもいいことさがし』

—小児科医が見た日本の子供たちとおとなたち—』

細谷亮太著 暮らしの手帖社

『いのちの輝き・フルフォード博士が語る自然治癒力』

ロバート・C・フルフォード著 翔泳社

求めていると言葉や人、ものや書籍も自ずと、その「時」に分相応に集まり、必要に応え、導かれると感じます。

今回一度に 3 冊を挙げさせて頂いたのはこれらに共通項を見出したからです。それは「静かに耳を傾ける」ということです。

その相手は、訪ねてきた旅人、或いは患者やその家族…それぞれの本で違えど、じっと聞く姿勢はどれも一様に相手に寄り添い、さりげなくも深い愛の姿が描かれています。

佐藤初女さんの著作は図書コーナーにも数多くあり、言わずと知れた"おにぎり"で相手の心を解きほぐす信仰者です。

『朝一番のおいしいにおい』タイトルだけで胸に広がるそれは、炊きたてのごはんやお味噌汁、今見直されている日本の"食"の原点です。「良いもの」を口にして、いのちを創り、繋ぎ、又食事の場を通して人と人の繋がりを生むのだと改めて教わり、憧れを抱きます。

細谷先生は聖路加病院の小児科医であり、小児がんを専門とされ沢山の子供たちの病、成長、死を見つめてこられました。

『いつもいいことさがし』は医療現場で直面するいのちの激動や喜びを、雑誌「暮らしの手帖」に連載したものをまとめた一冊です。

奥様と子供達はカトリック信者であり、ご自身も同様信仰の心を持って患者を、物事を、見られているのだと言葉の端々から感じます。

文学にも造詣深く、ゆったりと子供を見つめるまなざしといのちを敬う姿には学ぶべきものが多くあります。

フルフォード博士はアメリカでの西洋医であり、又まだ日本では知ることの少ない"オステオパシー医"として 90 歳を超えてなお活躍した治療家でした。

この本は医学的内容ながら専門的な用語を使わず、「心と身体は一体である」と述べています。

深呼吸が重要である事、体内に入れる食物を選ぶ目を持ち、自己の健康管理を現代人はもっと自覚し実行すべきだと声高に記しています。

『神はエネルギーという形をとって我々ひとり一人の内部にいる。
神が内部にいると信じる事が出来れば、自分の身体をもっと大切にする様になる』

一幸せとは一平穏な日常、家族や友人との温かな交流、今日の糧を得られる喜び…漠然と浮かぶそれらをより突き詰めていくと「健康な体」が不可欠であり、一番重要だと結論付けられます。

しかし、ともするとすっかり軽く扱ってしまい、結果、空気の様な当たり前の「幸せ」が揺らいでから悔い改めねばと身体の声にはっとするのです。

自分の器である身体と静かに対話をし、ケアを丁寧にする事も学びました。

私自身、いかに家族の健康が幸せの源であるか痛感する経験を致しました。その中で出会った数冊を通じ、得られた「静かに耳を傾ける事」それはイコール、「待つ」「受け留める」心の強さ、ではないかと思えます。

そして、その精神を支える健康な体こそが穏やかな日々の要であること。又その、いのち・健康の鍵となる"食"が如何に重要かを改めて考える機会に恵まれました。

なかなか理想通りには出来ないドタバタの日常ですが、一呼吸おいて、少しずつ出来ることから習慣づけ、ゆったりと慎ましく暮らしていけたら、と思っています。

マリア・クララ・シャンタル AS



The Mission to Seafarers, Kobe
Kobe Mariners' Centre
3-1-16 Motomachi-dori,
Chuo-ku, Kobe 650-0022
Japan
Tel : (078) 331-1696
Fax : (078) 331-1612
E-mail : general@flyingangelkobe.org



ザ・ミッション・ツー・シーフェラーズ神戸
神戸マリナーズセンター
〒650-0022
神戸市中央区元町通3丁目1-16
電話: (078) 331-1696
ファックス: (078) 331-1612
E-mail: general@flyingangelkobe.org

佐々教会様 有志の皆様へ

ご挨拶がたいへん遅くなり申し訳ありません。

今回も、船員の方々のためのニット帽を本当にありがとうございました。

特にきつい寒さが続いているこの冬、船員の方々は皆様の心のこもった帽子的提供を本当に喜んでくれております。

引き続き、帽子製作のために貴重なお時間を費やして下さった皆様には、船員の方々に代わりまして深くお礼を申し上げますとともに、今後ともご協力をいただきますようお願いいたします。

2011 年 2 月 14 日

THE MISSION TO SEAFARERS, KOBE
(神戸マリナーズセンター)

Paul

Paul Tolhurst



よのなかのひとがみいんな
ひとつの家にすまえたらいいのに
あたえるというきもちもなく
うくるというきもちもなく
ただ かんしゃし ただ いくしみ
そして あらゆるものは
そうごんなしけさにもえるのだ

八木 重吉
詩集より

《後記》

四旬節に入ってまもなく東北関東地方に巨大地震、大津波そして放射性物質の流出……。被災地の方々、犠牲になられた多くの方に胸つぶれる思いで一杯です。苦難の中にある方々が希望を失うことなく生きていかれますようにいつも主が共にいて下さいますように。

やがて迎える復活祭を前に私たち一人ひとりが神様から特別のメッセージを頂いたように思えてなりません。 (H)

此度の東日本大震災の被害は日を追う毎に大きくなっています。今私たちに出来ることは何か？ 沢山ある選択肢の中で先ず出来ることは祈ることではないでしょうか。聖書ではいつもお一人で祈っていらっしゃるイエス様が描かれています。また、5月に列福されるヨハネ・パウロ二世前教皇様がお一人で静かに祈られている写真は臉に焼き付いています。私たちもいつまでも祈り続けることが大切と思いました。 (I)

「すみよし」 第 183 号

発行日： 2011. 4. 24
発行責任者： 赤波江 豊神父
編集： 広報チーム
発行所： 神戸市東灘区住吉宮町 2-18-23
カトリック住吉教会
TEL： 078-851-2756
FAX： 078-842-3380
URL： <http://www.sumiyoshi.catholic.ne.jp>
製版・印刷： 信徒有志

